

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	54	学 校 名	静岡県立榛原高等学校	校 長 名	石川 徹
------	----	-------	------------	-------	------

	取組目標	成果目標	達成状況（ ）はR5	評価	成果と課題
ア	個別最適な学びを通じて確かな学力を高めるとともに、グローバルな探究活動を行う	○教員は教科等を理解できるよう指導していると思う生徒 90%以上 ○自分が行うべき家庭学習ができている生徒 80%以上 ○個人端末を効果的に活用した学習等をする生徒 90%以上 ○探究活動等を通して思考力・表現力・協働力を高めた生徒 85%以上 ○県内外と連携したグローバル事業（研修、発表等）を実践している ○英語4技能を高められた生徒 75%以上 ○新着図書情報等を毎月発信	生徒 93.9% (89.6%) 保護者 92.1% (88.8%) 生徒 68.9% (71.8%) 保護者 72.5% (68.5%) 生徒 81.2% (84.6%) 生徒 83.7% (83.6%) 保護者 86.6% (89.3%) 生徒 81.4% (77.0%) 英検 1級0人(0人) 準1級2人(1人) 2級22人(35人) 準2級61人(63人) 毎月掲示(生徒向)・発信(保護者向)した。	B	○全学年の教科・科目が新課程に移行し、試行錯誤しながらも各教員が思考力等の育成を意識した指導を行っている。 ○大半の生徒は課題を中心に家庭学習に取り組んでおり、課題を全く提出しない生徒は極少数である。しかし、家庭学習を学力の伸長に効果的に結び付けられる生徒は多数派とは言えず、特に長期休業中の課題に対して義務的に取り組む傾向が強い。課題の全体量の適正化を図りつつ、家庭学習への意識の更なる向上を目指す。 ○個人端末については、教員・生徒の活用頻度にはまだばらつきは残っているが、引き続き効果的な活用を促す。 ○普通科の総合的な探究の時間は、昨年までの実績を元に、内容を修正、改善して実施することができた。 ○地元企業、自治体、NPO法人等と連携した事業を行うことができた。2019年度以来の海外研修（ベトナム）を実施した。研修の在り方については今後も検討していく。 ○スピーキング能力を図るテストを1年生は各学期に1回、2年生は年1回ずつ実施することができた。英検では、1年次に準2級の取得、2年次に2級の取得をより積極的に呼びかける。 ○順調に発信できた。図書情報は充実しており、紹介があった本を図書館で借りる様子が見られた。
イ	一人ひとりの進路希望実現のため、系統のかつ個に応じた進路指導・支援を行う	○進路指導に満足している生徒 85%以上 ○学びの基礎診断や模擬試験における結果 前年度比アップ ○卒業生の国公立大学合格 30%以上 ○探究活動等を活かして進学	生徒 88.5% (81.3%) 保護者 86.3% (80.6%) 1, 2年生は7月と11月の模試で前年度の成績を上回った。 前期入試までで63人(32.5%)が合格 前期入試までで 41	B	○生徒の学力や進路意識が多様化する中、80%を超える満足度を維持することができた。担任が継続的に面談を行い、総合型・学校推薦型選抜受験が大幅に増えた中で生徒に応じた個別指導を全職員で実施した。働き方改革との両立が課題となっている。 ○個別最適化指導に向け教職員が一丸となって指導している。 ○引き続き国公立大学を志望する生徒を支援し合格者が増えるよう学習指導に当たる。目標値については、生徒の実態を踏まえ適宜見直していく。 ○12月時点では目標を達成し、探究活動

	取組目標	成果目標	達成状況 ()はR5	評価	成果と課題
		する生徒 20 人以上 ○理数探究の内容が満足できるレベルと判断する生徒 75%以上 ○「進路勉強会」の保護者満足度平均 80%以上	人、うち国公立大学は 17 人が合格 生徒 92.6% (93.8%) 保護者 81.6% (83.9%)		を通じて大学が求める資質・能力を育てることができていると感じる。 ○生徒は熱心に取り組んでおり自己評価は高いが、実際様子は個人差が大きい。教員配置の問題はあるが班の人数を減らすことで、生徒全員で分担し探究していく体制を作る。 ○2回の進路勉強会と、10本の動画提供に形式を変えた。勉強会はZoomも併用したが対面で30名以上が集まり、内容も好評だった。動画は10分程度で分かりやすいものとなっていて、適切なタイミングで保護者や生徒に視聴してもらえるように提供した。
ウ	規範を守り、進んで諸活動に取り組み、自己管理と礼節、他者を尊重する心を育む教育を行う	○校内で端末機器を利用規約に沿って使用している生徒 95%以上 ○期限を守っている生徒 90%以上 ○校内外においてあいさつができています生徒 95%以上 ○教員は生徒の個性を尊重していると思う生徒 85%以上 ○課外活動に積極的に参加している生徒 85%以上	生徒 96.3% (94.0%) 生徒 89.3% (89.6%) 教員 97.0% (93.6%) 生徒 98.2% (98.1%) 保護者 88.8% (88.4%) 教員 94.3% (91.1%) 生徒 87.6% (77.8%) 保護者 83.9% (83.4%) 教員 100% (90.6%) 生徒 89.6% (87.6%)	A	○多くの生徒・教員が積極的に端末機器を利用している。スマホを介してのトラブルはなかったが、日頃から注意喚起をしていく。端末機器の利用については、利用規約を明確にし、継続して適切な使い方を指導する必要がある。トラブルの未然防止を心掛ける。 ○期限を守ることが第一であるが、取組内容の質と効果を意識させ、指導の仕方も配慮しながら改善を促していく。 ○生徒が自ら進んであいさつをする習慣が着実に身についている。 ○生徒の個性を尊重した指導は、更なる改善を目指す。 ○部活動、委員会、校内外の行事、探究的活動に積極的に参加することができた。主体的に取り組むことのできる生徒の意識は文化として定着しており、これを維持できるよう支援していく。
エ	安全で安心な学校生活を保ち、整った環境づくりを教職員・生徒ともに行う	○校内の清掃・整頓が行き届いていると思う生徒 90%以上 ○教職員は生徒の健康・衛生管理を適切に行っていると思う生徒 90%以上 ○教育相談に満足している生徒 80%以上、保護者 80%以上 ○いじめ、体罰、重大事故 0件 ○安心して学校で生活できる施設・環境であると思う生徒 90%以上	生徒 86.3% (85.9%) 教員 85.7% (85.7%) 生徒 94.6% (95.7%) 保護者 91.6% (87.9%) 教員 100% (100%) 生徒 89.0% (84.9%) 保護者 83.0% (80.6%) 0件 生徒 89.9% (85.2%) 保護者 85.3% (86.2%)	B	○清掃活動がいつそう充実するために、美化委員による点検を引き続き行い、清掃分担箇所の見直しを柔軟に行う。 ○年間を通して感染症対策を行った。流行時は、呼びかけを強化する。次年度は、熱中症対策の見直しも行う。 ○1分間カウンセリングなどを実施して困っている生徒を早期に把握し、スクールカウンセラーから助言をいただきながら、適切に対応できている。人間関係に悩む生徒が増加しており、今後丁寧な観察・声掛けが必要である。 ○未然防止に努め、次年度以降も引き続き発生件数0件を目指す。 ○校舎が古い、トイレを改修してほしいなどの指摘は複数いただいているが、数値目標は概ね達成できた。コンプライアンス研修を年間15回以上行い、生徒・教員に対して注意喚起を行うことができた。危険箇所や不良箇所の迅速な修繕に努めた。

	取組目標	成果目標	達成状況 ()はR5	評価	成果と課題
オ	教職員の資質向上を協働的に図るとともに、業務の改善を行う	○校内研修テーマ「学校生活空間をデザインする」について協働的に研修した教員 90%以上 ○他教員の授業見学を年2回以上行った教員 85%以上 ○校外研修に参加した教職員 80%以上 ○時間外在校等時間が前年度比で減少した教職員 60%以上	教員 94.3% (96.9%) 教員 64.5% (87.9%) 教員 68.6% (82.9%) 教員 51.5% (48.5%)	B	○将来を見越し（生徒の実状を鑑み）た学校生活空間の利活用方法について、生徒意見も聴取して、教職員間で協働的に話し合いができた。 ○生徒個人端末を利用した教育活動の実践を更に広げるために、互いに授業見学するよう働きかけていく。 ○教員の負担軽減と校外研修参加率のバランスを取りつつ、向上を目指す。 ○数値目標は達成できなかったが、時間外勤務時間が減少した教職員が昨年度より改善し、過半数を超えることができた。次年度に向けて、引き続き教員の時間外勤務の縮小に向け働きかけていく。
カ	学校関係者、保護者等とともに教育活動の改善に取り組み、適時に情報を共有・発信する	○学校運営協議会の協議内容を学校運営に活かしている。 ○保護者の学校満足度 90%以上 ○HPやInstagramの記事を月平均で 15 回以上投稿する ○定期的に閲覧する保護者 60%以上 ○学校が必要な情報を発信していると思う保護者 95%以上 ○学校広報掲示物を月 1 回発行 ○一日体験入学、オープンスクール等の満足度 90%以上	管理職：活かすことができた。 保護者90.7% (91.4%) 生徒 89.8% (86.9%) 教員：達成できた。 保護者70.2% (68.0%) 保護者95.3% (95.7%) 発行できた。 一日体験：98.2% 回答数 279 人 (93.2%、307 人) オープン：92.5% 回答数 160 人 (98.7%、147 人)	A	○第2回協議テーマ：「学校生活空間をデザインする」、第3回協議テーマ：「持続的、発展的な探究を目指して」について協議し教職員や生徒に情報共有した。 ○保護者の満足度は達成された。生徒の満足度は、昨年度より向上したが、数値目標達成までもう一步であった。 ○学校行事から生徒個人の活躍など幅広く配信できた。 ○Instagramの導入に伴い閲覧数も伸び、目標を大きく上回った。 ○Classi やGoogle の活用が日常的になり、情報発信はとてもしやすいが、その分情報が埋もれてしまう課題もある。 ○学校案内や榛原高校通信「進取」等、充実した内容の広報誌を発行することができた。 ○一日体験入学は外部会場での3度目の実施で、会場を2日2会場から1日1会場に変更したが、総務部広報室を中心に準備を行い内容の濃いものとなり、98.2%という大変高い満足度を得た。1会場にしたことの影響はさほど大きくないと考えられる。オープンスクールは例年同様9月と11月に2回行い、90%を超える満足度を得た。昨年度から始めた教員対象の説明会においても、多くの参加者があり、これも高い満足度を得た。